

このマニュアルはNRDFのコーディングを行う者の為に用意されたものである。

§ 1 にはコーディングを行うための一般的注意を記す。

§ 2 では書誌情報区 (¥¥BIBセクション) の書き方、§ 3 では実験・測定情報区 (¥¥EXPセクション) の書き方、§ 4 ではデータ情報区 (¥¥DATAセクション) の書き方と、その際の注意事項を記す。

最後に § 5 でグラフに関する注意を記す。

§ 1. 一般的注意

- NRDFのデータは、書誌情報区に書かれた書誌情報<¥¥BIB>、実験・測定情報区に書かれた実験・測定情報<¥¥EXP>、データ情報区に書かれたデータ情報<¥¥DATA>からなる。
- データ情報はデータに関する共通な情報<¥¥DATA>と個別のデータ<¥DATA>からなり、さらに、<¥¥DATA>と共通の番号を持つ書誌情報<¥¥BIB>と実験・測定情報<¥¥EXP>とで一組のデータセットを構成する。
- 各データ情報は ¥END; で終わり、全情報は ¥¥END; で終わる。
- すなわちコーディングの形式は

¥¥BIB;

.....

¥¥EXP;

.....

¥¥DATA;

.....

¥DATA;

.....

¥END;

¥¥END;

となる。

- コーディングの対象となるのは、1つ以上のデータ情報をもつ論文である。
- 同じ論文に含まれるデータはすべて共通の書誌情報をもつが、実験・測定情報はデータ毎に異なる場合もあり、データ情報は一般的にすべて異なる。
- ある実験変数に対して、関数として数值的に測定、または計算された、一連のデータを一組のデータとしてデータセット番号 ¥DATA, #; をつける。
- 一組のデータ ¥DATA, #; に対して、同じ番号を与えられた実験・測定情報 ¥EXP, #; がそ

のデータを測定するために使われた実験条件を与える。

- ¥¥DATA, 1; に対しその実験条件を与える ¥¥EXP, 1; が、¥¥DATA, 2; に対しては¥¥EXP, 2; が対応するが、実験・測定情報 ¥¥EXP はいくつかに分割することもできるし、共通な情報をまとめて ¥¥EXP, 1, 2; のように書くこともできる。
- コーディングはエディター上で、NRDF. TXT を使って行われるものと想定する。
- データベースソフト桐を使ってコーディングを行う場合には「荷電粒子核反応データファイル年次報告92：吉田ひとみ、青木由香 ” パソコン入力によるコーディング作業の試み”」を参照せよ。
- コーディングは ¥DATA 以外の項目については、基本的に **項目名=項目値;** の形式で行われる。
- コーディングに要求されている項目名はすべてエディター上に用意されているので、対応する項目値を論文から読みとり、数値（必要なら単位をつけて）または辞書に記載されているコードを記入する。
- コーディングの際に使用できる文字、記号はFORTRANで使用される英数文字、記号 = + - * / () , . ' : とそれ以外の弱冠の記号 @ [; < > # % である。アルファベットはすべて大文字を使用する。
- 必要な注釈は英語で書く。
- 複数の項目値がある場合には、項目値全体を () でくくり、各値は , で区切る。
- 必要のない項目は消去する。
- 項目名、項目値に使うコードは辞書に用意されているが、新しいコードが必要な場合には北大に登録すること。（物理量と対応する登録したい新コードを明記した書類を日本荷電粒子核反応データグループ「北大理学部原子核研究室」に郵送する。）
- コーディング結果はテキストファイルとしてフロッピーディスクに書き込み、対応する論文のコピーと一緒に日本荷電粒子核反応データグループに郵送すること。

・注釈の付け方

/ / が用意されている場合は直接 / と / の間に書き込む。

/@ と @/ の間に番号 #x を書き込み、行を改めて @@#x; の後ろに書き込んでもよい。#x は他の注釈と区別されればどのような数字でもよい。

コード、数値に注釈を付ける場合には、注釈を付けたいコード、数値（単位のある場合はそれも含めて）の直後にフラグ '#1' をつけ、さらにその行の ; の後に注釈記号 /*@ #2 @*/ をつける。

注釈は別の行に @@#2; '#1' と書いてからその後に英語で書き込む。

#1, #2 はそれぞれフラグ番号、注釈番号であるが、対応するフラグ番号同志、注釈番号同志は一致していなければならないが、フラグ番号と注釈番号が共通である必要はない。

注釈は行を改めれば任意の行に書いてよい。（次の行でも、¥¥END の後でも）

共通な注釈は、フラグ番号、注釈番号を共通にしておけば改めて注釈を書く必要はない。

適当なコードが辞書にない場合には、コードを書くべき場所に X' #3' と書き、さらにその行の ; の後に注釈記号 /*@ #4 @*/ をつけ、行を改めて @@#4;' #3' と書いてからその後に必要な解説を英語で書き込む。#3, #4 は共に任意の数字でよい。

§ 2. 書誌情報

一つの論文に対し一つ書く。

左づめに書かれたものは項目名である。

情報として要求される項目名はすべて記載されている。

例として適当な項目値が書き込まれている。

右側の * 以下は解説、注意書きである。

< > で囲まれたものは分類のための情報で、コーディングの際には消去する。

<¥¥BIB>

¥¥BIB, 1[8; *この文献に含まれるすべてのデータ番号を書く。

*1~8 は 1[8 と書く。

D#=D94T3; *論文毎に振り付けられた文献番号。

TITLE=/REACTION BY PROTON/;

*論文のタイトルを / と / の間に書く。もちろん /@番号@/ とし、行を改めて、@@番号;論文のタイトル と書いてもよい。

PURPOSE=/TO DETERMINE THE CHARGE DISTRIBUTION/;

*論文中に実験の目的が明示されている場合には / と / の間に書く。

*必要がなければ省略できる。省略する場合にはこの項目を消去すること。

ATH=(Y. AKAISHI' 1', K. KATOH' 2', H. YOSHIDA' 2', H. TEZUKA' 3');

*著者名を書く。姓以外はイニシャルで。著者名の後ろのフラグの番号と次項の研究機関名の番号が対応する。

INC-ATH=(2JPNINS' 1', 2JPNJPN' 2', 2JPNJPN' 3');/*@2@*/, /*@3@*/

@@2;' 2' HOKKAIDO UNIV., SAPPORO, HOKKAIDO, JAPAN

@@3;' 3' TOYO UNIVERSITY, ASAKA, SAITAMA, JAPAN

*著者に対応した研究機関名をコード名で書く。

*論文のタイトルの欄に書かれたものを使い、現住所などが別に書かれている場合にも、その情報は無視してよい。もし、必要な情報であると判断したならば、注釈とし書き込む。

*同一施設内の部局の違いは特別なコードがない限り無視する。

(同じ大学の学部の違いは無視する)

*辞書 INST. DIC から選択

*研究機関のコードがない場合には国名を重ねたコードを書き、後ろに注釈記号 (/ * @ * /) を書き、行を変えて研究機関名を注釈としてつける。注釈記号の番号とフラグの番号は一致していてもよい。

REF=PR/C:

*雑誌名をコード名で書く。

*辞書 REF. DIC から選択

VLP=(59, 1999, 123); *巻、年号、先頭ページ の順に書く。

RCTS=(12C (P, D) 11C, 28MG (P, 2*P, N) 26NA);

*測定された核反応をすべて羅列する。標的粒子 (入射粒子、放出粒子) 残留粒子

*28MG (P, 2*P, N) 26NA の例では、質量数 28 の Mg に陽子が衝突し、2つの陽子と1つの中性子が放出され、質量数 26 の Na が残留した反応を示す。

*終状態の確定していない inclusive reaction のような場合には、28MG (P, P) X' # と書き、注釈をつける。# はフラグの番号

*sequential reaction のような場合にも、二つ以上の反応式を + で結ぶようなことはせず、別々の反応として書き、各反応に注釈をつける。

*粒子コードは辞書 PART. DIC から選択

X線:X-RAY γ 線:GAMMA

電子、 β 線:BETA (β^- :BATAN β^+ :BETAP)

中性子:N 陽子:P 反陽子:ANTIP

重陽子:D 三重陽子:T ヘリウム3:3HE α :ALPHA

μ 粒子:MU (μ^- :MUN μ^+ :MUP)

π 中間子:PI (π^- :PIN π^+ :PIP π^0 :PI0)

K中間子:K (K^- :KN K^+ :KP K^0 :K0)

Λ 粒子:LAMDA

*元素記号はそのままコードとして使える。例えば、質量数 28 の Mg は 28MG と書く。ただし、窒素は中性子と混同するので質量数 14 の窒素は 14N と書くが、自然窒素は 999N と書く。同様にリンも陽子と混同するので、自然リンは 999P と書く。

PHQS=(ANGL-DSTRN, ENGY-SPEC);

*測定された物理量

*辞書 PHQ. DIC から選択

§ 3. 実験・測定情報

書式としては、データ番号毎にすべての実験条件を一つの ¥¥EXP にまとめて書く方法

¥¥EXP1;

.....

¥¥EXP2;

.....

¥¥EXP3;

.....

.....

と、データ番号が異なるものに対しても共通の実験条件は一つの ¥¥EXP にまとめる方式

¥¥EXP1, 2;

.....

¥¥EXP1, 3;

.....

¥¥EXP3;

.....

.....

とがあり、適宜都合のよい方を選択できる。

実験情報として要求される項目名はすべてここに記載されている。対応する項目値を論文から読みとり、記入する。

論文に記載されていない項目名は消去する。

項目値に関して注釈が必要な場合には、項目値（単位があればそれも含めて項目値として扱う）の後ろにフラグ '#1' をつけ、さらに ; の後ろに注釈記号 /*@ #2 @*/ をつける。

注釈は別の行に @@#2;' #1' と書いてからその後ろに英語で書き込む。

対応するフラグ番号同志、注釈番号同志は一致していなければならないが、フラグ番号と注釈番号が共通である必要はない。

<¥¥EXP>

¥¥EXP, 1, 3, 5[8]; *データ ¥¥DATA1, ¥¥DATA3, ¥¥DATA5~¥¥DATA8 の測定に次に ¥¥EXP までの間に書かれた実験条件が使われたことを意味する。

RCT=12C(P, D) 11C; *この測定に使われた核反応

RTY=INEL-SCATT; *核反応のタイプ
*辞書 RTY. DIC から選択

<TARGET> *ここには標的核の情報が書かれる。

- ¥¥EXP, 1, 3, 6; *データ ¥¥DATA1, ¥¥DATA3, ¥¥DATA6 の測定に次に ¥¥EXP までの間に
書かれた実験条件が使われたことを意味する。
*データ番号が前の ¥¥EXP と共通であれば改めて ¥¥EXP を書く必要
はない。
- ENR=NAT; *標的核のアイソトープ濃度
*濃縮されていない場合は ENR=NAT;
*濃縮されている場合にはその濃度を書く。 例) ENR=87.5%;
- CHM=ELM; *標的核の化学的形態
*単体なら CHM=ELM;
*化合物の場合にはその化学式を書く。 例) CHM=CA. CO3
*元素記号が 2 文字の場合は後ろに . をつける。
*化合物で辞書に登録されていない物質は直ちに北大に登録すること。
*辞書は CHM. DIC
- PHYS-FORM=SLD; *標的核の物理的状态 個体:SLD 液体:LIQD 気体:GAS
- THK-TGT=4.2MG/CM**2' 11'; /*@12@*/
@@12;' 11' AVERAGED VALUE
*標的核の厚み
*使われた単位は ミリグラム/平方センチメートル
*注釈の付け方の例を示してある。
*厚みに相当するものなら別の物理量を使うこともできる。例えば気
体などの場合には圧力などでもよい。
- BAC=C; *標的核のバックキング
*バックキングのないとき (SELF-SUPPORT) は BAC=SELF;
*バックキングのあるときはその物質名を書く。この例では炭素
- THK-BAC=>8.5MG/CM**2;
*バックキング物質の厚さ
*バックキングのない場合には当然省略される。
*8.5Mg/cm**2 以上の意味で > の記号が使える。以下の場合には < を
を使う。およその意としては [
- POL-TGT=80%; *標的核の POLARIZATION
*POLARIZE されていない場合には省略する。
*文献中に記載されている場合には 0% としてもよい。
- ALGN-TGT=60%; *標的核の ALIGNMENT
*ALIGN されていない場合には省略する。
*文献中に記載されている場合には 0% としてもよい。
- <ACCELERATOR> *ここには加速器の情報が書かれる。
- ¥¥EXP, 1[8; *データ番号が前の ¥¥EXP と共通ならば改めて書く必要はない。

- * ACC=CYC; *使われた加速器
 サイクロトロン:CYC 線形加速器:LINAC シンクロトロン:SYN
 シンクロサイクロトロン:SYNCYC ヴァンデグラーフ:VDG
 タンデムヴァンデグラーフ:VDGT
- INST-ACC=2JPNINS; *加速器のある研究機関名
 *辞書は INST.DIC
- INC-ENGY-LAB=(10, 12, 15MEV);
 *入射エネルギー 実験室系での数値
 *10MeV, 12MeV, 15MeV の3種の入射エネルギーが使われた。
 *重心系でのエネルギーが与えられている場合は、次の項目名を選ぶ。
- INC-ENGY-CM=(MEV);
- INC-ENGY-LAB-RANGE=(16MEV(2MEV)30MEV);
 *入射エネルギー 実験室系での数値
 *16MeV から 2MeV ステップで 30MeV までのエネルギーが使われたことを意味している。
- INC-ENGY-CM-RANGE=(MEV(MEV) MEV);
 *上の4つの INC-ENGY 項目名のうち便利なものを使う。必要のない項目名は消去する。
- DELTA-INC-ENGY-LAB=40KEV;
 DELTA-INC-ENGY-CM= KEV;
 *入射エネルギーの幅
- ERS-PRJ=80KEV; *入射エネルギーの不確かさ
- BEAM-INTNSTY=50NA; *入射荷電粒子の強度
 *使われた単位は ナノアンペア
- CHRG-INC-ION=1; *入射粒子の電荷
- POL-PRJ=60%; *入射粒子の POLARIZATION
 *POLARIZE されていない場合には省略する。
- ION-SOURCE=/ /; *イオン源に関する情報が与えられている場合には / と / の間に英語で書き込む。

<DETECTED PARTICLE>

*ここには測定粒子の情報が書かれる。

¥EXP, 1, 3, 6;

DET-PARTCL=P;

*測定粒子

X線:X-RAY γ 線:GAMMA

電子、 β 線:BETA (β^- :BATAN β^+ :BETAP)

中性子:N 陽子:P 反陽子:ANTIP

重陽子:D 三重陽子:T ヘリウム3:3HE α :ALPHA

μ 粒子:MU (μ^- :MUN μ^+ :MUP)

π 中間子:PI (π^- :PIN π^+ :PIP π^0 :PIO)

K 中間子:K (K^- :KN K^+ :KP K^0 :K0)

Λ 粒子:LAMDA

COINC=NO;

*同時測定した粒子があればここに書く。なければ COINC=NO;

ANT-COINC=NO;

*反同時測定した粒子があればここに書く。なければ ANT-COINC=NO;

<DETECTOR>

*ここには測定器の情報が書かれる。

¥¥EXP, 1, 3, 6;

に

*この例のように直前の ¥¥EXP と同じデータ番号が記されている場合に

は ¥¥EXP, 1, 3, 6; を省略してもよい。

DET-SYS=(MAG+MWPC+TOF, PC);

*使われた測定器

*スペクトロメータと連動して使われた一組の測定器は MAG+... の形に、それ以外に独立した測定器として使われたものは、で区切る。

*辞書は DET. DIC

SOLID-ANGL=18MSR;

*測定立体角

*使われた単位は ミリステラディアン

ERS-DET=500KEV;

*全エネルギー分解能

CALB-DET=/ /;

*測定器のキャリブレーションに関する情報があればここに書く。

MONTR-RCT=/ /;

*測定器のモニターに使われた反応があればここに書く。

EFCN-DET=/ /;

*測定器の効率に関する情報があればここに書く。

<ANALYSIS>

*ここにはデータ解析の情報が書かれる。

¥¥EXP, 1, 3, 5;

ANL=(OPT-MODEL, DWBA, X' 21'); /*@31@*/

@@31;' 21' SPECIAL ANALYSIS IS USED. SEE TEXT P. 125

*使われた解析法

*ここでは注釈の例として、特殊な解析法が使われ、それについては論文の p. 125 を参照せよという注釈が記されている。

*辞書は ANL. DIC

<OBSERVABLE>

*ここには測定された物理量が書かれる。

¥¥EXP, 1, 3, 7, 8;

PHQ=(ANGL-DSTRN, DSIGMA/DOMEGA, SPEC-FCTR);

*測定された物理量

*PHQ. DIC

§ 4. データ情報

データは基本的に ¥DATA 以下に 変数 関数值 (測定量) 測定誤差 の形式で記述される。変数に誤差があれば、変数誤差の形で書き込む。一つの ¥DATAに共通な物理量はそれと組になった ¥¥DATA に記載される。一組のデータは ¥END で終わり、全データの最後には ¥¥END が付く。

すなわちデータは

```

¥¥DATA, 1;
  項目名=数値;
  .....
¥DATA;
  変数   関数   誤差
  (単位) (単位) (単位)
  数値   数値   数値
¥END;
¥¥DATA, 2;
  項目名=数値;
  .....
¥DATA;
  変数   関数   誤差
  (単位) (単位) (単位)
  数値   数値   数値
¥END;
  .....
¥¥END;

```

の形になる。

<¥¥DATA>

<OPTICAL POTENTIAL>

*光学ポテンシャルに関しては他と書式が異なるので別に扱う。

¥¥DATA, 1;

*データ番号

*このデータを測定するための実験条件は ¥¥EXP に 1 と書かれている項目に記載されている。

PRJ=P;

*入射粒子

TGT=12C;

*標的核

INC-ENGY-LAB=12MEV; *入射エネルギー (実験室系)

INC-ENGY-CM= MEV;

POTL-FORM=/(- (V*F (XR) + I * (WV*F (XIV) -

4*WS*DIF (1/XIS) F (XIS) + WG*G (XIG))) + (HBAR/ (MPI*C) **2*1/R* (VSO*DIF (1/R) F (XRSO) + I*WSO*

DIF(1/R)F(XISO))*SIGMA*L+UC(R):

F(XI)=1/(1+EXP(XI)): G(XG)=EXP(-XG**2):

XI=(R-RI*A**(1/3))/AI:

UNIFORM CHARGE OF RADIUS RC*A**(1/3):/;

*光学ポテンシャルの形式

*異なる形式の光学ポテンシャルが使われている場合には、これを参考にして適当に書き直す。

¥DATA;

INC-ENGY-LAB V RR AR WV RIV AIV WS RIS AIS WG RIG AIG
(MEV) (MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM)

*この行に対応する数値を書き込む。

*必要のないパラメータは消す。

¥END;

<¥¥DATA>

¥¥DATA, 2;

*次に続く ¥DATA に共通する物理量はすべてここに書く。

*データ情報として要求される項目名はすべてここに記載されている。

*必要のない項目名は消去する。

<GENERAL>

INC-ENGY-LAB=12MEV; *入射エネルギー (実験室系)

INC-ENGY-CM= MEV;

CMPD= ; *複合核

EMIT-1= ;

EMIT-2= ; *測定された放出粒子が2以上ある場合にはここに書く。

RSD=11C; *残留核

INTRM= ; *中間状態

<CONDITION>

EXC-ENGY=0.93MEV; *残留核の励起エネルギー

DELTA-EXC-ENGY=0.05MEV;

*残留核の励起エネルギーの幅

J-PTY=1-; *残留核の励起状態のスピン、パリティ

ISOPIN=1; *残留核の励起状態のアイソスピン

EXC-ENGY-INITL= MEV;

*初期状態の励起エネルギー

J-PTY-INITL=0+; *初期状態のスピン、パリティ

ISOSPIN-INITL=0; *初期状態のアイソスピン
 EXC-ENGY-FINAL= MEV;
 *終状態の励起エネルギー (連続反応などの場合に)
 J-PTY-FINAL= ; *終状態のスピン、パリティ
 ISOSPIN-FINAL= ; *終状態のアイソスピン
 EXC-ENGY-INTRM= MEV;
 *中間状態の励起エネルギー (連続反応などの場合に)
 DELTA-EXC-ENGY-INTRM= MEV;
 *中間状態の励起エネルギーの幅
 J-PTY-INTRM= ; *中間状態のスピン、パリティ
 ISOSPIN-INTRM= ; *中間状態のアイソスピン
 QVL=0.5MEV; *Q値
 TOT-ERR= %; *全誤差
 SYS-ERR= %; *系統的誤差
 STATIST-ERR= %; *統計誤差
 NORM= / /; *規格化、絶対値に関する情報があればここに書く。

<EMT> *放出粒子 (1つだけの場合) の情報
 EXC-ENGY-EMT=0MEV; *放出粒子の励起エネルギー
 DELTA-EXC-ENGY-EMT= MEV;
 *放出粒子の励起エネルギーの幅
 J-PTY-EMT= ; *放出粒子のスピン、パリティ
 ISOSPIN-EMT= ; *放出粒子のアイソスピン
 ENGY-EMT-LAB= MEV;
 ENGY-EMT-CM= MEV;
 *放出粒子のエネルギー
 THTL=45DEG; *散乱角 (実験室系)
 THTC= DEG; *散乱角 (重心系)

<EMT-1> *放出粒子が2つ以上の場合、1番目の放出粒子の情報
 EXC-ENGY-EMT-1= MEV;
 *1番目の放出粒子の励起エネルギー
 DELTA-EXC-ENGY-EMT-1= MEV;
 *1番目の放出粒子の励起エネルギーの幅
 J-PTY-EMT-1= ; *1番目の放出粒子のスピン、パリティ
 ISOSPIN-EMT-1= ; *1番目の放出粒子のアイソスピン
 THTL-1= DEG; *1番目の放出粒子の散乱角 (実験室系 天頂角 θ)
 THTC-1= DEG; *1番目の放出粒子の散乱角 (重心系 天頂角 θ)

PHIL-1= DEG; *1番目の放出粒子の散乱角 (実験室系 偏角 ϕ)
 PHIC-1= DEG; *1番目の放出粒子の散乱角 (重心系 偏角 ϕ)
 ENGY-EMT-1-LAB= MEV;
 ENGY-EMT-1-CM= MEV;
 *1番目の放出粒子のエネルギー

 <EMT-2> *放出粒子が2つ以上の場合、2番目の放出粒子の情報
 EXC-ENGY-EMT-2= MEV;
 *2番目の放出粒子の励起エネルギー
 DELTA-EXC-ENGY-EMT-2= MEV;
 *2番目の放出粒子の励起エネルギーの幅
 J-PTY-EMT-2= ; *2番目の放出粒子のスピン、パリティ
 ISOSPIN-EMT-2= ; *2番目の放出粒子のアイソスピン
 THTL-2= DEG;
 THTC-2= DEG; *2番目の放出粒子の散乱角 (天頂角 θ)
 PHIL-2= DEG;
 PHIC-2= DEG; *2番目の放出粒子の散乱角 (偏角 ϕ)
 ENGY-EMT-2-LAB= MEV;
 ENGY-EMT-2-CM= MEV;
 *2番目の放出粒子のエネルギー

 <COINCIDENCE> * γ 線と相関を取った場合の情報
 ENGY-GAMMA= MEV;
 *相関を取った γ 線のエネルギー
 EXC-ENGY-COINC-INITL= MEV;
 * γ 線放出前の核の励起エネルギー
 J-PTY-COINC-INITL= ;
 * γ 線放出前の核の励起状態のスピン、パリティ
 ISOSPIN-COINC-INITL= ;
 * γ 線放出前の核の励起状態のアイソスピン
 EXC-ENGY-COINC-FINAL= MEV;
 * γ 線放出後の核の励起エネルギー
 J-PTY-COINC-FINAL= ;
 * γ 線放出後の核の励起状態のスピン、パリティ
 ISOSPIN-COINC-FINAL= ;
 * γ 線放出後の核の励起状態のアイソスピン

<¥DATA>

¥DATA1;

THTC DSIGMA/DOMEGA DELTA-DSIGMA/DOMEGA
THTL DSIGMA/DOMEGA DELTA-DSIGMA/DOMEGA
(DEG) (B/SR) (B/SR)

**** *****
**** *****

¥END;

*微分断面積 $d\sigma/d\Omega$ の角分布のデータの例

*実際には THTC または THTL どちらかの行を選択し、他は消去する。

*データが数値で与えられている場合には、***** に直接数値を書き込む。

*データがグラフで与えられている場合には、論文のそのグラフに
” 赤 ” でグラフ番号 Fig.1-Aなどを付け、***** の位置にその
グラフ番号を /*Fig.1-A*/ の形式で書く。

*項目名は必要なものだけ残し、他は消去する。

¥DATA2;

THTC ANALPW DELTA-ANALPW
(DEG) (NODIM) (NODIM)

/*Fig.2-D*/

¥END;

*ANALIZING POWER の角分布のデータの例

*データはグラフ Fig.2-D で与えられているものとする。

*単位は必ずつける。

¥DATA3;

THTL POL DELTA-POL
(DEG) (%) (%)

**** *****
**** *****

¥END;

*POLARIZATION の角分布のデータの例

¥DATA4;

EXC-ENGY DELTA-EXC-ENGY L J-PTY DEFM-PARA SPEC-FCTR EWSR
(MEV) (MEV) (NODIM) (NODIM) (NODIM) (NODIM) (%)

***** ***** ** **** ***** *****

```

*****          *****          **          ****          ****          ****          ****
¥END;

```

*エネルギースペクトラムのデータの例

```

¥DATA5;
THTC      DATA1' 41'   DELTA-DATA1' 42'
(DEG)     (UNIT1' 43') (UNIT1' 43')
****      *****     *****
****      *****     *****

```

```

¥END
/*@41*@/  /*@42@*/  /*@43@/
@@41;' 41' DATA1 IS ???????
@@42;' 42' DELTA OF DATA1, DEFINED BY @@41;' 41'
@@42;' 42' UNIT1 IS !!!!!!!

```

*辞書にコードのないデータや単位が使われている場合には、この例のようにフラグ ' ' をたてて、注釈で解説する。
 *注釈の付け方もこの例にならう。

```

¥¥END;          *すべてのデータの最後は ¥¥END; で終わらなくてはならない。

```

§ 5. グラフの説明

データが論文中にグラフで与えられている場合は、そのグラフにグラフ番号 Fig. # をつけ（論文のグラフ番号とは独立につける）、¥DATA に /*Fig. #*/ の形で参照する。

コーディングの対象となるデータは離散的なデータに限られる。（グラフ上では点データとして与えられていなければならない。）

論文中のグラフには、読み取りがスムーズに進むように

- ①誤差の表記（ポイントタイプ）
- ②横、縦軸のスケール（ログ、リニア）
- ③横、縦軸の物理量 コードで
- ④横、縦軸の単位 （ ）に入れて
- ⑤読み取るべき点

を” 赤 ” で明記しておかなければならない。

例)

Fig. 1-A		ポイントタイプ	(ABC)
横軸:	リニア	THTC	(DEG)

縦軸：	ログ	DSIGMA/DOMEGA	(MB/SR)
-----	----	---------------	---------

注) 黒点・をとること

注釈付きのコードを使用する場合には、赤でつける論文中の注にも、必ずフラグ
' ' と対応する注釈記号 /*@ *@*/ をつけなくてはならない。

ポイントタイプの表記方

中心点のみ (誤差のない場合) (B)

中心点と、上下に誤差棒が付いている場合 (ABC)

中心点と前後左右に誤差棒が付いている場合 (ABCDF)

誤差棒がグラフからはみ出している場合には A→E C→J D→K F→L に
変える。

